寛永諸家譜

茶道

186

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186（~~184~~ 186）
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

宗傳　　貞
宗氏　　利
了雲　　利

寛永諸家系圖傳

清和源氏

堀

播磨乃庶流なり

信定

内膳正

長釈自此御子播磨

乃元祖なり

浅草文庫

清定

内膳正

家次

監物

具

法名宗林

正信

堀小太郎

楊井の称号を輝しく堀氏を改

天正十二年長久手合戦で討死

藤九

出家のち紀雲となづく乃ち江戸

ゆき宗叡と号す世間之河源海村

宗念幼少より出家し参列大
樹寺の僧となり寺領二百石を給ふ
文禄三年九月
大樹秀吉公の城下宿に招ひて雲
をついぐされ先祖より四和の親戚
還俗して関東下向とべきの乃
しるし 伯おさ名ろ雲寺領りかつら
く還俗と仰せらるのよを立上
と居ことしくなどなくして雲

還俗し号長元年江戸より下向し
大樹秀吉公 謁しく面つ名附
伯りいく名前 御意を遠背し
いまはら落隅しこさるるふ
伯乃いろなるとして許容し
ら海子遂りよりほろく
事を始ど
同十二年 五十二歳ゆく死せ
法名善養

正長

堀小太郎　宗信ハ国遠江懸川
城主渡守正信正長ニ　いひて
いとく　海ヶ仙父小太郎ハ君のこめか
討死ヲ即ち名字をたゞ屋ことと
なりこゝにをいて堀小太郎ハ
号ヲ
号長十二年正信を先容ゆゑ

大膳亮ヲ称ゆゑ海つる
同十三年十一月
名浦院ヲ附ら号　ゆゑいとく海ヶ
父ハ入道なら海も入道ゆゑ
ゆゑ　ゆゑ即日刑　殺ゆゑ宗信
と号ヲ
名浦院殿ヲ　ゆゑ海つる事
二十五年ゆゑ後
将軍家ヲ　ゆゑ海つる

長親

内記

忠政

太京

家の紋　梅鉢

国立公文書館
National Archives of Japan

長成

越前 城列西畏河鴻村ニ生ル

光源院義輝ヲ捨テ城列西畏河鴻

村ニ居テ歳七十三ヲ以テ病死 法名宗和

未勘

河鴻

長俊

市之介　世間同前

織田信長より佐久間川越中守丸與組

より屋敷城列河海村を以て

此智田向守光秀反逆乃時城列大ゟ

乱討ゟ洗川長門守と成り伊勢国

ゟ入り之我死と成五十五　法名宗春

一

利金助之丞

刑部　後剛斎と号す

梅津長逸軒の傳

周存

善貞

生國 山城

天正十五年より豊臣秀吉に仕い
ぐ秀頼に仕ふ
慶長十一年めされて
大僧正に成て食禄を給ふ
元和二年
右逝院殿に成て
同三年より

将軍家に仕ふ

東

右衛門

東

市郎左衛門

正成

虎熊 平蔵 山城上総介 生ふ

松平肥前守利常ヲ任ス

東

虎之助　七歳武蔵

東

虎之助　利隆ト称シテ長吉ト号ス

七歳　後河

寛永四年ヨリ食邑ヲ

将軍家ヲ以テ

たゝ

東

熊之助　七歳武蔵

国立公文書館
National Archives of Japan

清和源氏

鳴海

新藤三郎義光六世乃孫奈一清時

ゝめゝ鳴海と称

連清

木村新集　木村ハ宇多源氏佐々木の

流なり

三好笑岩ゝ二子の地を

後を　刑部して宗孫と名づく

清持

末村新作

父乃跡を継ぎて英宗に仕へ

用人秀沢に仕へ刑部しく

道祐となづく

寿世

鳴海五郎太郎

母方氏を用ひて鳴海と号す

文孫四年刑部して秀秋と名づく

同年より

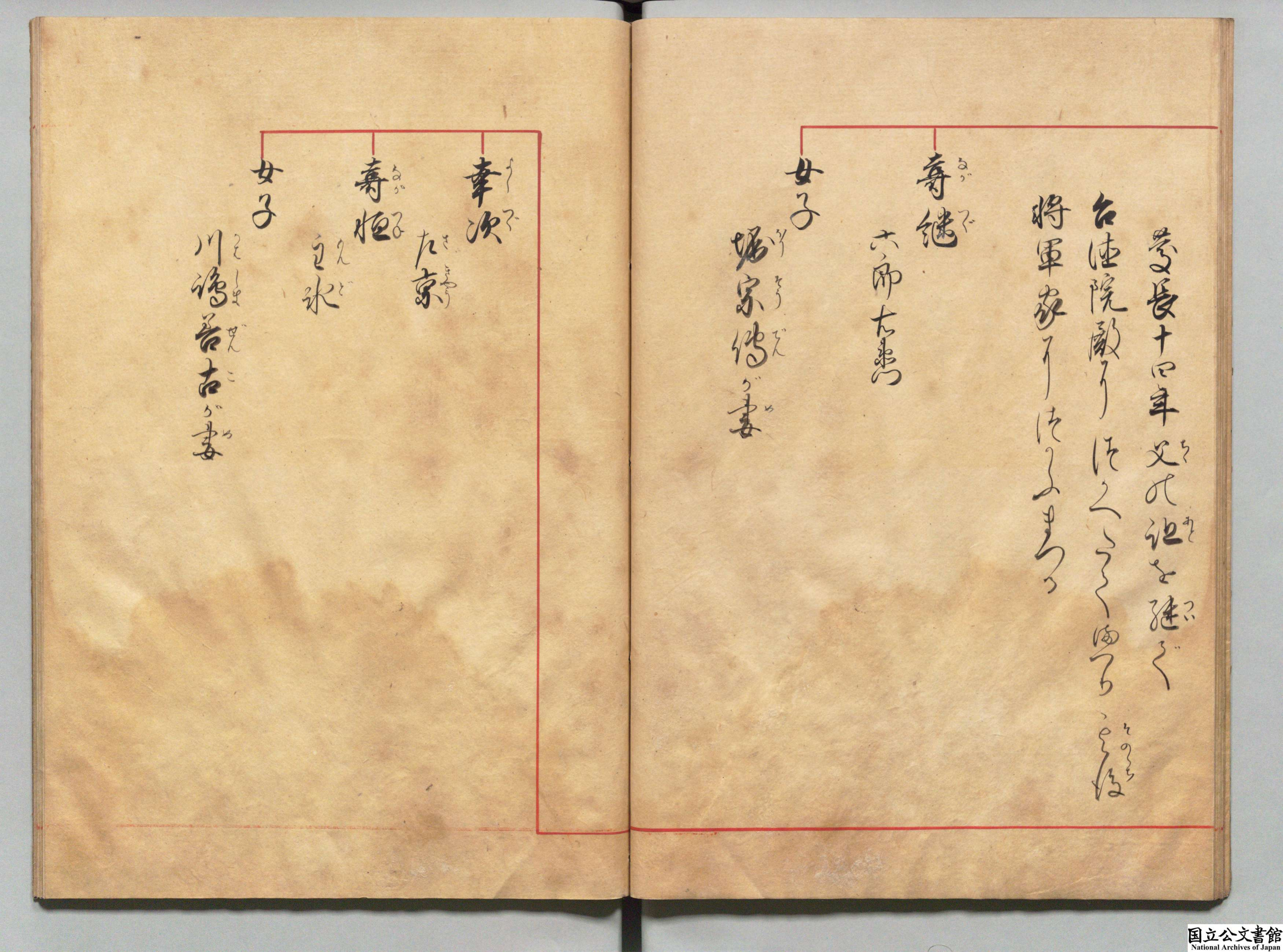
名古屋藩に仕へ

寿長十四年歳五十三

寿幸

新蔵

刑部して宗孫と名づく


寿長十四年文政を継ぐ
右法院殿より法名を受ける
将軍家より法号を賜ふ
寿継
六郎左衛門
女子
堀家侍の妻
幸次
左京
寿恒
白水
女子
川鶴吾右の妻

国立公文書館
National Archives of Japan

平野
原田

常通
芦隠斎と号す　廿四国泉州堺住

維利
清次郎　左馬允
号す　廿四国同前

剃髪して宗馬と

統前中納言秀秋卿ハ後治人と
なる
慶長九年藤敵公庫助を先容として
法院敵ハ洛陽に潛しこゝに
金孫を作る
元和九年
法院敵乃嚴命を蒙り教寺
の頭となる
將軍家ハ此こゝに
寛永十五年五月廿六日病死歳八十三

利剃

重信二男　利勝と号す
牛國武義
実ハ年齢九歳永元可ゞ次男なるを孫
そなる故を以て家駒養ゝ
寛永元年より
將軍家ハ此こゝに
家駒死

その子を祖とせり

其

源之助　甲斐国河内
実父乃系図
清和源氏
平野

其

三好十郎

勝瀧

三好長慶　甲斐国河内
摂州芥山の城主
三好修理亮の一族
元和五年八月十五日病死歳八十
法名
常清

元可

平野九郎

甘國四郎

本は三好氏なり元可河州平野の生れ故に平野を名乗り称号とす

古井大炊頭利勝の使番を務む

元延

利森

市丞　甘國武義

古井大炊頭利勝の使ふ

国立公文書館
National Archives of Japan

藤原姓
中野

秀郷
俵藤太と号し 征夷大将軍

千常
鎮守府将軍

国立公文書館
National Archives of Japan

文脩

鎮守府將軍

文行

従五位下　左兵衛尉

公光

従五位下　相模守

実名公行ゝなり

公清

左兵衛尉　作麻と号す

知郷

尾張守

知基

従五位下　雅人正

知昌

従五位上　尾張守

知忠

従五位上　尾張守　玄蕃頭

知廣

従五位下　民部大丞　尾張五

知永

尾張太

永信

中務之命　中務乃祖

国立公文書館
National Archives of Japan

京氏

尾張太　法名浄心

京教

左兵衛尉

時京

左兵衛尉

京連

左兵衛尉

教連

左兵衛尉

教廣

左兵衛尉

教氏

六郎左兵衛

此間中絶

京成

中野又兵衛

京遠

新左兵衛

京久

歌集　法名宗甫

笑雲

京都より出る

古田織部正宗重を御して茶湯の作法を傳授

寛長六年古田織部正を先客として

大樹より召出し御茶道頭仰付る

同十七年四月七日

大樹駿府の城へ登り

石淀院殿へ御茶を進ぜらるる時

作をうけらるる御茶道の役をば

もし此時抱頭巾の御茶入を

石淀院殿へ召せられ

同年の冬

大樹江戸へ御出

石淀院殿御茶入御交の賞として御茶

を欲し所人所望
役を勤望日本字上野介成瀬雄人正安為
第力をもび迎賀の法士をもて義昭御
茶を給ふ笑雲かくれなくと其
席末列させ時古田織部正業
道の役をなし
大坂出陣仕奉
元和二年五月後府より江戸へ
石清院殿へ 渡つ
時に江戸へひく宅地をもふ
同七月書をもうして居住を
同三年一地を洛外牧溪が畫不の施
馬に御山の本墨うれを賞せ
同九年 古田織部正が歌を不の伊賀
燒乃水指を洛外
大檜皮をもび
石清院殿御上洛供奉為を勤
石清院殿日光御社參并ひ御書物

乃世代毎度これをつとむ

永元
中野長兼

瑞雲
兼房
栄雲

永通
長五郎
女子

了雲
生国後河
元和二年八月朔日酒井雅楽以を先容
ゆゑ
石清院敵対し渇ゆゑ酒つゝ時有

八歳

同五年より勤仕しそくはつる

同六年六月五日　病命有り西丸

乃御台殿有り　をひろく碁子菓湯の

事をつとむ

将軍家御感悦あらく黄金并有

御羽織御帷子等をたまふ

同九年御上洛　供奉

寛永三年御上洛　供奉

同五年五月

将軍家日光より還御の時

伏見院殿御菓を進ぜられ御菓子

乃役をつとむ

同九年御上洛　供奉并月光

御社参毎度　供奉

笑悦

武列江戸に住ず

女子

四人

家乃紋上女

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan